

村民が揺れた激動の半年

白石村合併物語



▲昭和25年7月1日、白石村と札幌市の合併記念式典が市民会館で開催された

● 上白石地区から始まった合併話

最初に合併話が持ち上がったのは、白石村の最も西部に位置する上白石地区である。この地区は、明治三十二年の東橋開通を機に住宅地・工業地帯として急激に発展し、隣接する札幌市白石町とほとんど区別がつかない状態であった。同地区の会社の封筒には「札幌市外上白石何区」と印刷されていたほどであり、以前にも合併の話が出たことがあった。また、戦後の厳しい食糧難の中、道路一本挟んだ札幌市の方が多く配給されるようなこともあり、ついに同地区の有志らが札幌市に対して編入を陳情するに至る。昭和二十四年十月のことである。これを受けて開かれた札幌市議会庶務財政委員会で、この件が取り上げられ、上白石地区の編入は異議なしとして、その意向が同月白石村に伝えられた。これ以後、合併に向

昭和二十八年は、町村合併促進法が施行され、いわゆる「昭和の大合併」が幕明けした年である。その三年前に、全村合併を成し遂げた白石村。村民がその決断を下すまでの激動の半年間をたどってみたい。

● 当時の白石村の状況

白石村の当時の人口は約二万人。ちなみに、昭和十四年の上白石地区の人口は村民の約四割を占めている。札幌市からこの地区の編入の意向が伝えられた白石村では、調査と審議を行い、同地区の全部

または一部の合併を同年十二月に可決した。

当時、合併に積極的だったのは、主に青年団を中心にした消費者層であり、札幌市に近い地区に多かった。白石村中心部では、仙台藩白石領主片倉小十郎の流れを組む元士族が多く、白石村の名前を守ろうと合併には消極的であった。一方、純農村地帯の厚別

白石村の概要図（昭和25年）



※は札幌市白石町

- ①最初に合併話が持ち上がった上白石地区。昭和24年12月に村議会で可決した合併区域。
- ②その後、住民からの陳情などにより、昭和25年2月に札幌市議会が通告した合併区域。
- ③それに対して同月、村議会協議会が提示した合併区域。以後、合併問題は混迷を深める。
- ④当初合併に反対者が多かった厚別地区。昭和25年4月の村議会と市議会で全村合併を決議。